

平成24年度事業報告書

我が国の経済社会は、世界経済の減速、円高・デフレ等により景気の不安定・低迷が続きました。木材産業につきましては、新設住宅宅着工が883千戸と前年を上回ったものの、木材価格が西日本を中心として急激に下落するなど、依然として厳しい事業環境にありました。政府は日本経済再生に向け平成25年1月に「日本経済再生に向けた緊急経済対策」を打ち出し、金融・財政、民間投資の対策の積極的かつ大胆な政策展開を開始しました。

そのような中で、当協議会は、関係団体と連携して関係省庁に対して、緊急的な木材需要拡大、公共建築物等への木材利用促進のための対策実現について要請活動を実施しました。また、木材利用拡大普及活動として、「木材利用優良施設コンクール」を実施し入賞作品の表彰を全国会議で行うとともに、コンクールに応募があった施設を掲載した「写真で見る「木」の施設」～木造事例集～を発行しました。さらに、街づくり、商工業施設への木材利用拡大に向けて先進的取組み事例の発表会を全国木材組合連合会との共催で実施しました。

平成24年度の当協議会の主な活動は、次のとおりです。

1. 木材利用推進全国会議の開催

平成24年7月30日、江東区新木場の木材会館において、国土緑化推進機構の支援を得て、各都道府県並びに都道府県推進協議会、当加盟団体など約100名の出席の下に開催しました。

会議は、関係省庁から施策説明のほか「公共建築物への木材利用推進の取組み等」について講演をいただき、続いて、岩手県紫波町から「循環型のまちづくり」～コンクリートから木へ～、東武鉄道㈱から「東京スカイツリータウン東京ソラマチの商環境における木材利用について」事例発表と意見交換を行いました。林野庁からは「木質バイオマスの固定買取価格制度」について説明をいただきました。

講演では、長谷見雄二氏（早稲田大学理工学術院教授）から、「大規模木造の実現に向けた防耐火技術・計画の取組と課題」について講演をしていただき

ました。(別添1)

2. 第4回「新たな木材利用」事例発表会の開催について

平成25年2月14日、林野庁、国土交通省、財団法人日本住宅・木材技術センター及び財団法人日本木材総合情報センターの後援を得て、「街づくり・くらしと木材利用」をテーマに、先進的な事例の発表会を全木連と共催して実施し、新たな木材利用分野の拡大、公共建築物等への木材利用推進普及の取り組みを行いました。第1部「街づくり・くらしと木材利用」では、(株)竹中工務店、東京大学生産技術研究所、森林総合研究所、(株)隈研吾建築都市設計事務所、富士急(株)及び飛騨産業(株)事例の発表、第2部「大型構造物と地域材利用」ではショートステイ等への木材利用等6例の発表を行っていただきました。

参加者は、一般消費者、建築設計関係、家具・木材事業関係等300余名の参加者から大きな関心が寄せられました。(別添2)

3. 優良木造施設の表彰と木造事例集の発行による木材利用拡大活動

①木材利用優良施設の表彰

平成24年7月30日、東京都江東区新木場の木材会館において、木材利用普及等を目的とした木材利用優良施設コンクールの表彰式を開催しました。

公共建築物等木材利用促進法が制定されたことなどもあって、例年より多い121例の応募があり、この中から農林水産大臣賞1点、林野庁長官賞3点、当協議会会長賞5点が表彰されました。(別添3)

②木造事例集の作成、配布

木材利用優良施設コンクールに応募した作品を掲載した簡易な冊子を作成し会員及び応募作品関係者に配布しました。

また、この冊子を木材関係団体及び行政機関等へ広くPRし販売普及しました。(3月末の販売数量3,148部)

4. 公共施設等に対する木材利用推進のための各省庁への要請活動

木材利用推進全国会議における宣言決議を踏まえて、平成24年8月9日、関

係 8 省庁に対し、公共建築物や住まい・街づくりへの木材利用促進について関係中央団体とともに要請活動を実施しました（別添 4）。平成 25 年度概算要求されていた公共建築物への木材利用促進対策、木材利用ポイント事業は、平成 25 年 1 月の緊急経済対策で実現しました。公共建築物関係は、当協議会で要望していた、「民間の公共施設」も対象となり、全国で積極的にその活用が進められています。

5. 公共建築物等への木材利用に関する各種情報の提供等

(1) 公共建築物等法制度に基づく市町村方針の策定推進

公共建築物等法制度に基づく、国の機関、都道府県の方針は平成 23 年度中に策定が出揃いました。しかし、市町村方針の策定状況は十分なものとなっていないことから、その策定に向けた推進活動に取り組みました。その結果、平成 25 年 3 月現在で全体の 3 分の 2 に当たる 1,114 市町村で策定が進みました。

(2) 施策の有効活用推進、各種情報連絡について

緊急経済対策で措置された公共建築物等への木材利用促進対策は、民間の公共施設も対象となったことと等を踏まえ、その有効活用を推進しました。

公共建築物等法制度に基づく国等の施策、各省庁における木材利用の状況等に係る情報、その他の必要な情報等について会員に対して情報連絡につとめました。（別添 5）

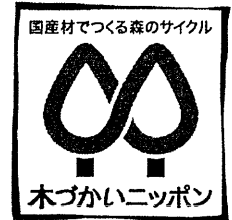
(別添 1)

平成24年度木材利用推進「全国会議」

—多様な木材利用の推進拡大に向けて—

日 時： 平成24年7月30日（月） 13時から17時30分
場 所： 木材会館 7階ホール

東京都江東区新木場 1-18-8 TEL03-5534-3111



第1部 木材利用推進「全国会議」

(木材利用推進中央シンポジウム)

- | | | |
|---|---|-------|
| 1 | 木材利用推進中央協議会会長挨拶 | 13:00 |
| 2 | 来賓挨拶 林野庁次長 国土交通省 木造住宅振興室長 | |
| 3 | 公共建築物への木材利用推進の取組み等 (1) 国の施策・取組み ①林野庁 木材利用課 阿部 勲 課長 ②国土交通省 官庁営繕部 木材利用推進室 会田 隆 課長補佐 ③文部科学省 文教施設企画部施設助成課 高見 英樹 課長補佐 | 13:30 |
| 4 | 事例発表 ア 推進事例等 ① 岩手県紫波町の「循環型のまちづくり」～コンクリートから木へ～ 紫波町産業部 小田島 栄太郎 部長 ② 東京スカイツリータウン 東京ソラマチの商環境における木材利用について 東武鉄道株式会社 生活サービス創造本部 SC事業部 久保田 和也 課長 イ 木質バイオマスの固定買取価格制度について 林野庁木材利用課 添谷 稔 課長補佐 | 14:30 |

推進活動宣言

- | | | |
|---|---|-------|
| 5 | 講演 演題 大規模木造の実現に向けた 防耐火技術・計画の取組と課題 講師 早稲田大学理工学術院 教授 長谷見 雄二 氏 | 15:30 |
|---|---|-------|

(全国会議・シンポジウム終了)

第2部 木材利用優良施設の表彰式

16:30

平成24年度木材利用優良施設の表彰式

主催：木材利用推進中央協議会

(1) 審査講評 審査委員長

後援：農林水産省

(2) 賞状授与 ①農林水産大臣賞

②林野庁長官賞

③木材利用推進中央協議会会長賞

(3) 挨拶 林野庁長官

(4) 謝辞 受賞者代表

(表彰式終了)

* 懇談会の開催 於：6階会議室(木材会館)

17:30～

どうぞ ご参加下さい。

(今回のシンポジウムは、「緑と水の森林ファンド」の助成を受けています。)

第4回「新たな木材利用」事例発表会 次 第

日時：平成25年2月14日(木) 13:15～16:50

場所：木材会館ホール(7F)

1 開会(13:15)

2 主催者挨拶

3 林野庁挨拶

4 事例発表

(第1部) 街づくり・くらしと木材利用 13時30分～16時00分

ア 大型の商業ビル等への利用 …………… 株式会社 竹中工務店 先進構造エンジニアリング本部
特殊架構グループリーダー 五十嵐 信哉 氏

イ 木造の中層集合住宅への利用 ～ 下馬の集合住宅 ～
…………… 東京大学生産技術研究所 教授 腰原 幹雄 氏

ウ 木製エクステリアの新たな取組み … (独)森林総合研究所 機能化研究室室長 木口 実 氏

エ 都市ビルへの木材利用(内装) ～ 浅草文化観光センター ～
…………… 株式会社 隈研吾建築都市設計事務所 主任技師 針谷 將史 氏

オ 鉄道と木の温もりー鉄道旅行の復興ー… 富士急行株式会社 交通事業部 鉄道担当課長 奥田 壮一 氏

カ スギ材の家具利用 ～ 圧縮技術が森を救う“杉を使うということ”～
…………… 飛騨産業株式会社 専務取締役 本母 雅博 氏

(第2部) 大型構造物と地域材利用(6事例) 16時00分～16時45分

…………… 独立行政法人森林総合研究所 構造利用研究領域
チーム長 軽部 正彦 氏

5 閉会(16:45)

主催：全国木材組合連合会、木材利用推進中央協議会

後援：国土交通省、林野庁、(財)日本住宅・木材技術センター、(財)日本木材総合情報センター

平成24年度木材利用優良施設受賞施設の概要

| 賞 区 分 | 施設名及び施工主、設計者、施工者 | 施 設 の 概 要 |
|-------------------------|--|---|
| <p>農林水産大臣賞 (1点)</p> | <p>こうち旅広場 (高知県) 施 主: (財) 高知県観光コンベンション協会 設計者: (有) 州建築工房 施工者: 新進建設(株) (延床面積 1,474.76㎡) 主要樹種 スギ、ヒノキ</p> | <p>施設は高知駅前 positioning し、高知駅舎の木造の大屋根(くじらドーム)と関係を保ちながら、東西に向かって伸びる水平屋根やリズムカルに展開される木材そのものを持つ色合いの柱と焼きスギの壁など、同じデザイン要素を持つ3棟の施設が並んでいる。 施設利用者は、管理棟から幕末志士社中、情報発信館「とさてらす」への順路の中で、木の温かさや質感、香りが体感でき木造施設の良さが実感できる施設となっている。 建物の深い庇は、南国特有の強い日差しから施設を守るだけでなく、隣接する高知駅利用者や通行人に開放、強し日差しや風雨をしのぐ場として又憩いの場として利用されている。</p> |
| <p>林野庁長官賞 (3点)</p> | <p>ショートステイ啄木鳥 (秋田県) 施 主: 社会福祉法人正和会 設計者: (株) 小野建築研究所 施工者: むつみ建設(株) (延床面積 1,825.52㎡) 主要樹種 スギ</p> | <p>秋田スギの無垢材の構造体で、外観は水平線を強調した構図として、垂直性を抑えて空間の重心を下げ、落ち着きを与え、空間を静かに引き締めている。また、深い庇を支える雁木は雪国の住まいを支える知恵である。 食堂、居間は太い大黒柱を中心に縦横に伸びる梁と貫の立体格子は高窓からの光に照らされて浮かび上がっている。床に衝撃吸収能力が高いコルクや木材を使用し、利用者の転倒時の怪我の発生を抑えるような工夫もなされている。</p> |
| <p>林野庁長官賞</p> | <p>東部地域振興ふれあい拠点施設(愛称: ふれあいキューブ) (埼玉県) 施 主: 埼玉県 春日部市 設計者: (株) 山下設計 施工者: (株) 錢高組北関東支店 (延床面積 10,529.08㎡) 主要樹種 スギ、カラマツ、アカマツ他</p> | <p>この建物の基本コンセプトに「都市の森」を掲げ、CO2削減の最先端モデルとなる設計を目指している。 1〜4階を鉄骨造、5〜6階を耐火木造とするハイブリット構造は(カラマツ集成材と鉄骨)、10,000㎡を超える高層建築物としては全国初の取組みである。 外観は木目調の市松模様が印象的なデザインとなっており、また、木造の耐震パネルともなっている。 この建物に使用されている木材は、樹種、強度等級、製造社名がラベリングされている。</p> |

| 賞 区 分 | 施設名及び施主、設計者、施工者 | 施 設 の 概 要 |
|------------------------|---|--|
| 林野庁長官賞 | 伊都グレストハウス (福岡県) 施 主: 国立大学法人九州大学 設計者: ㈱徳岡設計 施工者: 松井建設㈱ (延床面積 2,110㎡) 主要樹種 スギ | 主に外国人研究者を対象とした職員宿舎として「和の雰囲気」が感じられる施設をコンセプトとしている。 比較的容易に調達できる150cm程度の製材を拡張樹脂アンカー工法により繋ぎ合わせ、大断面の柱、梁にすることで、強固な大規模木造建築を実現している。また、金物を表面から無くし木目の美しさが最大限に引き出されている。 多目的ホールは大断面の柱や格子梁、木製家具により木の魅力、和の雰囲気、を最大限に引き出した空間を構成している。住居の全室の床、腰壁等には木質素材が採用されている。 |
| 木材利用推進中央協議会 会長賞(5点) | ㈱アミノアップ化学・エコハウス棟 (北海道) 施 主: ㈱アミノアップ化学 設計者: ㈱竹中工務店北海道支店 施工者: ㈱竹中工務店北海道支店 (延床面積 6,246㎡) 主要樹種 カラマツ、タモ、ナラ | 構造はRC造り等であるが、ナラフローリング、タモを用いた木製サッシ、カラマツルーバーなど道産材を多く使用して内装の木質化を図っている。 こうした内装木質化のほか、地中熱を利用した空調や雪冷房システム、商品生産時に発生する余熱の回収・再利用、太陽光発電システム導入など環境配慮技術が採用されている。その結果、エコハウス棟は、一般的事務所建築と比較して約50%のCO2排出削減効果を実現している。 また、構内には国産「オオムラサキ」の幼虫が好むエンゴキを始めとした地域に根ざした多様な樹種を植栽し、周辺の自然と調和することにも配慮されており、小さな生き物が住みやすい環境づくりがなされている。 |
| 木材利用推進中央協議会 会長賞 | 石巻市相川保育所・北上子育て支援センター (宮城県) 施 主: 石巻市 設計者: 新沼建築事務所 基本設計: 石巻工業高等学校 施工者: 日本製紙石巻テックノ㈱ (延床面積 834.95㎡) 主要樹種 スギ、カラマツ | この建物は地元で将来を担う若い技術者育成を後押しするため、基本設計は、石巻工業高等学校に依頼して建設されたものである。 高台に避難所としての機能も有する施設として建設され、完成直後に東日本大震災が発生し、その機能が発揮された。 市の公共施設の建築設計を高校生に託すのは初めての試みであったが、光を取り入れる屋根の形状や保育室の配置に工夫がなされていたり、園児たちが自然と触れあえるよう、南側の広場と保育室の間にウッドデッキを設けた施設となっている。 |

| 賞 区 分 | 施設名及び施工主、設計者、施工者 | 施 設 の 概 要 |
|--------------------|--|---|
| 木材利用推進中央協議会 会長賞 | <p>飯能市立名栗小学校 (埼玉県)</p> <p>施 主: 飯能市 設計者: ㈱桂設計 施工者: 細田建設㈱</p> <p>(延床面積 1,859.41㎡) 主要樹種 スギ、ヒノキ</p> | <p>学校林の木材を活用した木造とRC造の利点を生かした混構造の建物である。一階の昇降口中央にスギとヒノキの化粧柱を配置してこの校舎のシンボルとしている。</p> <p>普通教室、図書室、廊下の天井はスギ野地板があらわしになっており、床、壁はともにスギ板張りとなっている。</p> <p>児童が触れる部分には無垢材を用いて、木の香りと温もりを感じることができるよう工夫がなされている。</p> |
| 木材利用推進中央協議会 会長賞 | <p>小菅村体育館 (山梨県)</p> <p>施 主: 小菅村 設計者: 疾測量㈱ 施工者: 長田組土木㈱</p> <p>(延床面積 885.98㎡) 主要樹種 カラマツ、スギ、ヒノキ</p> | <p>小菅村は、多摩川源流の郷であるとともに、良質な木材産地である。柱や梁には県産のカラマツを大断面集成材に加工して使用し、内装材はスギとヒノキが用いられている。</p> <p>ステージ面の両サイドには、村の有志から寄贈された幹の太さが約80cmのヒノキが体育館のシンボルとして建てられている。自然とともに生きる小菅村、そこで育った木材で建てた体育館が村のシンボルとして利用されることが期待されている。</p> <p>また、体育館建設財源には「ふるさと納税」制度による資金も活用されている。</p> |
| 木材利用推進中央協議会 会長賞 | <p>新東名高速道路サービスエリア (静岡県)</p> <p>施 主: 中日本高速道路㈱東京支社 設計者: ㈱浦野設計他1社 施工者: ㈱鴻池池組・㈱守谷商会他4社</p> <p>(延床面積 570.71㎡～1,962.00㎡) 主要樹種 ヒノキ、スギ</p> | <p>新たに開通した新東名高速道路のサービスエリアは、建物は鉄骨造りであるが、内装に静岡県産のヒノキ、スギの他再生木材のMDFを用いて多くの人々が集うサービスエリアに潤いを与えている。</p> <p>内装の木質化は商業施設やトイレなど広い範囲に及んでいて、東海道の宿場町の賑わいを感じさせるものとなっている。</p> <p>また、建物の全面に築山を配置したり樹木を植栽してサービスエリアを訪れる人々に止まらず地元にも愛されるエリアを目指している。</p> |